



このたび、サクラグローバルホールディング株式会社(代表取締役会長・松本謙一氏、東京・日本橋本町)パブリック・リレーションズ室長の長谷川フジ子氏が二月にドバイで開催の「WHX Dubai」を視察することを知り、是非、現地のレポートをお願いし、このほど寄稿していただいた。(編集部)

二〇二六年二月九日(月)〜十二日(木)に、中東・アフリカ地域最大級の医療・ヘルスケア展示会である「WHX Dubai (旧Araba Health)」が、アラブ首長国連邦ドバイで開催された。筆者は、松本謙一会長視察団に同行する機会を得たので、その概要を報告する。

WHXの改称とWHX 2026の移転の背景

今回の変更は単なる名称変更や会場移転にとどまらな。 「Araba Health」という名称は中東地域色が強く、地域展示会の印象を与

海外視察報告(ドバイ編) WHX(World Health Expo)

2026に参加して

サクラグローバルホールディング(株)パブリック・リレーションズ 室長 長谷川フジ子



WHX Dubai 会場視察

「World Health Expo」への改称は、グローバルブランドとしての再定義を意図した戦略的転換といえる。また、DWTCは交通利便性に優れたものの展示面積に制約があり、今後の拡張余地が限定的であった。 Expo Cityは広大な展示空間を有し、医療機器展示に加え、デジタルヘルスや投資フォーラムなどの複合開催が可能である。これはUAE

政府が推進する医療・先端産業集積戦略とも軌を一にする動きと考えられる。

なお、国際シリーズの一環として、今年七月には大阪でWHX Japanの開催が予定されている。

紙面の都合上、本稿ではWHX Dubaiの様子を中心に紹介する。

和も目的の一つとみられる。

2. 会場概況

会場エントランスには多様な民族・文化圏からの来場者が集い、国際色の豊かさが見立っていた。会場は南北パビリオンに分かれ、広大な敷地に多数のホールが展開されている。

入場は公式アプリを通じたQRコード提示方式で、スクリーンショットは無効とされるなどデジタル運用が徹底されていた。同アプリではプース検索や参加者マッチング機能が充実しており、来場者動線の効率化に寄与している。

3. 南パビリオン

南パビリオンは15ホールのJETROプースでは、一般企業16社(新出展2社)、スタートアップ企業8社(新出展2社)が出展。例年より天井が高く、空間に余裕のある設営が印象的であった。



「来訪者対応が追いつかないほど盛況」 「アフリカからの来場者が増加している」との声が聞かれた。初出展企業からは、中東・アフリカ市場進出を視野に代理店探索を目的とする参加であり、「現地で得られる情報の質が高い」との評価があった。また、代理店のみならず病院関係者の直接訪問も増えていると指摘もあった。情報収集で参加している日本企業の動向も把握した。

また、ドバイ政府プースはイベント全体を象徴する規模を誇り、国家戦略としての医療産業育成姿勢を強く印象付けた。

4. 北パビリオン

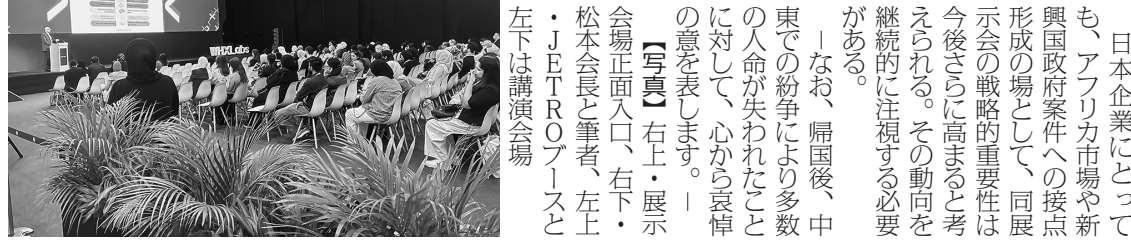
北パビリオンでは、MondayやCanonなど、大型画像診断機器を前面に出した巨大プースが並び、迫力ある映像演出と大規模設営が目玉を引いた。南パビリオンとは異なり、資本力を背景としたスケール感が強調されていた。



徴を如何に示しているかが問われる。会場内では多言語対応のインタラクティブロボットが動き回り、会場を和ませている。さらに充実したサポート体制が整備されており、デジタル活用とホスピタリティの両立は日本開催時の参考事例となる。一方で、健康関連イベントでありながら喫煙規制が比較的緩やかに見受けられた点は、文化的差異として印象に残った。

まとめ

新生WHX Dubaiは、従来の中東地域展示会の枠を超え、「世界医療ハブ」としての性格を明確に打ち出している。来場者層は中東にとどまらず、アフリカ、ヨーロッパ、そして中央アジア、東南アジアへと広がっている。日本企業にとって



も、アフリカ市場や新興国政府案件への接点形成の場として、同展示会の戦略的重要性は今後さらに高まると考えられる。その動向を継続的に注視する必要がある。 ーなお、帰国後、中東での紛争により多数の人命が失われたことに対して、心から哀悼の意を表します。 【写真】右上・展示会場正面入口、右下・松本会長と筆者、左上・JETROプースと左下は講演会場